

北斗通信

(令和6年7月号)

1. 埼玉県 公立高校 令和7年度募集定員発表	1
資料① 埼玉県公立高校 令和7年度募集定員の概要	5
2. 埼玉県 公立高校	
令和7年度入試選抜要項・要領・選抜基準発表	2
資料② 電子出願の願書・受検票	7
3. 東京都 都立高校の令和6年度入試平均点から	2
4. 千葉県 公立高校の令和6年度入試平均点から	3
5. 千葉県 令和5年度受験生の評定調査結果から	3
資料③ 千葉県令和5年度受験生の評定調査	9

会員限定情報「北斗通信」

令和6年7月12日

岩佐教育研究所

TEL048-688-4698

FAX048-675-0219

E-mail shohokuto@gol.com

無断転載を禁じます。

1. 埼玉県 公立高校 令和7年度入試募集定員発表

資料① 埼玉県 令和7年度公立高校募集定員の概要

埼玉県教育局は、6月18日、令和7年度の公立高校の募集人員を発表した。

7年度入試の全日制募集人員は、公立高校131校で35,480人と前年より3校3学級120人減少した。

募集増は、草加西、減は、鶴ヶ島清風、越谷東、栗橋北彩、川口市立・普の4校だった。

令和7年春の国・公・私立中学校の卒業予定者は、6万1832人(5月1日付学校基本調査)で前年同月と比較し、281人減少する。

公私間協定比率 65:35 で本来なら、160人前後の定員減となる筈だが、前年の20学級800人の募集減(在籍は680人減)を少し戻したことになる。

前年では、県立2校2学級減、4校5学級の増(ただし川口市立は内部進学者の受け入れで2学級増)とし、令和8年度に実施する和光国際・和光、岩槻・岩槻北陵、秩父・皆野、越生・鳩山、八潮南・八潮、大宮工業・浦和工業の12校の統合再編の前準備として和光、

岩槻北陵、皆野、鳩山、八潮、浦和工業の6校920人を募集停止とした。

また、定時制課程では、越ヶ谷、川越工業・工業技術の2校2学級の定員減を実施した。

今春の全日制的入試では、出願1.13倍、志願確定1.12倍で推移した。実質倍率でも、1,251人(前年1,485人)の欠員があったが1.15倍となった。

この結果、全体の不合格者は、5,069人となり、前年の5,008人より61人増加していた。

公立の統廃合では、募集困難校を中心に実施されていることが目に付く。このため、学力低位層や長欠の生徒の受験は、定時制よりも通信制に流れているようだ。

県内で偏差値45を下回る男子の併願校は、ほとんど見当たらない中で、公立まで統廃合によって下位の生徒の進路先を無くしていけば、通信制に流れるのは、仕方ないのかもしれない。

6年度入試で800人の定員減を実施する等、在籍が減より大きい定員減を行い、私学の定員超過に大きなペナルティを課す。さらに、進学希望者の県内枠を狭めているのに、県外進学者は県の助成金の対象から外しているなど、埼玉では教育行政の整合性が取れなくなってきているように思えます。

一方で、通信制高校側では、従来の暗いイメージを一新し、新しいタイプの学校として生まれ変わってきたように思います。ネット等の普及や、部活の外部委託などで益々通学の意義や、教室での集団授業の意義が問われる時代になってきました。

2. 埼玉県 公立高校 令和7年度入試実施要項・選抜要領・選抜基準発表

埼玉県教育局は、6月18日に令和7年度入試の「生徒募集人員」、7月1日に「公立高校入試要項・選抜要領」、7月5日に「各高校の選抜基準」を発表した。

5年度以前は、新型コロナ予防からの入試日程の変更等があったが、以降は、令和元年度並みの日程に戻っている。

大きな変更点としては、出願は、全校で電子出願(インターネット出願)を実行することと、合格発表が、これまで発表日の10時に行われていた掲

示がなくなり、合否紹介システムを使用したネットによる9時からの発表一本になったこととなる。

また、出願が今春の2月7・8・9の3日間から1月27日から2月10日と2週間に及ぶ長さに変更されている。

合格発表が追検査結果を含め6日になるなど、中学校の卒業式前に全ての手続きが終わるようになってきている。

要項、選抜基準には、個々の学校での微調整はあるが、大きな入試内容などの変更点はない。

県教育局の7年度入試での合格発表は、東京が3月3日・埼玉が3月6日、千葉県が3月4日となっています。

このため埼玉の東京隣接地区、東京の埼玉隣接地区の併願手続きは、重複してやや忙しいことになりそうです。

3. 東京都 都立高校の令和6年度入試平均点から

6月27日に東京都教育庁は、令和6年度都立高校の入試平均点等を発表した。

対象となるのは、学校独自問題採用校の独自問題実施教科を除く、第一次・分割前期入試の受験生の平均点となる。

なお、全教科マークシートでの実施となっている。

学校独自問題での実施を除き、国語が34,467人、数学が34,465人、英語は34,270

人、社会と理科は38,042人の平均となっている。

国語 75.9点(80.8)

数学 61.7点(57.6)

英語 66.9点(62.8)

社会 55.5点(55.6)

理科 66.8点(59.4)

()は前年度の平均

5教科合計では、前年度より8.6点上がり

326.8 点となっていた。

一昨年から前年では 18.7 点上がり 318.2 点となっている。

数学が 4.1 点、理科が 7.4 点、英語が 4.1 点上昇し、国語が 4.9 点、社会が 0.1 点下降するなど、各教科でバラツキが大きくなっていた。共通問題の平均点は、これまで、国語は 65～70 点、他教科は 55～60 点になることが

多く、作問の目標点とも考えられたが、マークシートによる作問以降、上昇傾向にあるようだ。

平均点が 65 点を上回る入試問題による選抜は、入試本来の意味を失わせるようにも感じる。

この平均点は、自校問題実施校は入っていないため、数値だけで教科の難易度は測れないことに注意が必要だ。

4. 千葉県 令和 6 年度入試平均点から

千葉県教育庁は 5 月 17 日、令和 6 年度入試の平均点を発表した。

令和 6 年度の本検査での各教科の平均点は、次のように発表された。

(カッコ内は 5 年度 本検査)。

▽国語 50.4 点 (47.9)

▽社会 57.5 点 (54.5)

▽数学 51.9 点 (47.0)

▽理科 59.1 点 (60.7)

▽英語 56.4 点 (47.6)

5教科合計の平均点は、前年度より 17.6 点上昇し 275.3 点になった。

千葉県では、学習指導要領の改訂から、出題分野が増加し、出題も「論理的に考察する力、統合・発展的に考察し表現する力」を重視する出題になってきていた。

そのため、これまで 2 年連続での平均点が低下してきたが、今年度の上昇は、マークシートになった初年度であったことが影響しているのかもしれない。

千葉県公立高校の初めての 1 回選抜では、最終の実質倍率は、1.14 倍となり、前年後期の 1.15 倍と変わらなかった。昨春の選抜では、1.20 倍、今年度では、1.22 倍と上昇しています。

5. 千葉県 令和 6 年度受験生の評定調査から

資料③ 千葉県 令和 6 年度受験生の評定調査結果

7 月 1 日千葉県教育庁は、令和 6 年度受験生(令和 6 年 3 月卒業生)の評定調査結果を発表した。評定調査は、東京に引き続きの全校調査となる。

埼玉県では、平成 15 年以降は、実施していない。

令和 3 年度から、学習指導要領の改訂に伴い、要録の観点別評価の観点が変更となり、各教科の評定への変化が予想された。一方、この

評定がそのまま使用される調査書については、その結果を検証することがなく 4 年度入試以降で利用されている。

千葉県では、資料③を見ると、全科目にわたり前年度なみの評定割合になっているようだ。

但し、実技系の科目の「5」の割合が 5 科目の割合よりも少なく、「4」に集中する傾向があるようだ。

また、9科目総合の割合は不明だが、国語では、88.3%の生徒が評定「3」以上、数学で82.6%、英語は83.4%などとなっている。技術系4科は、9割を超えていた。

また、この割合は、前年度から変わっていない。

東京都の評定調査、千葉県の評定調査を比較すると、調査をしていない埼玉の評定も想像できると思います。各教科の「5」が20～25%ということは、1クラスで「5」が8～10人いるということです。さらに、「3」以上が80～85%ということは、同様に32人から34人いるということです。この状況で公平な選抜が出来ているとは思えません。

閑話休題

ウィズコロナ、教職員の働き方改革、あるいは、入試採点・評点ミスの解消から、公立高校のコンピュータ使用が急速に拡大してきました。神奈川では、平成29年度からがコンピュータ採点が、令和6年度入試から全校ネット出願に、東京都でも、平成29年度からコンピュータ採点が、令和5年度入試から全校ネット出願になり、千葉県では、令和6年度入試から、ネット出願とコンピュータ採点を実施しています。埼玉では、7年度からネット出願を採用していません。採点については、入試改革を実施する9年度に検討するとしています。県内私学の入試では、コンピュータ採点は、平成の初期には、数校で実施していたと記憶しています。ウェブ出願は、募集が少数の学校以外ほぼ全校で実施しています。

今春、初めてネット出願を採用した千葉県では、コンピュータの不具合により、多少混乱があったようです。

また、東京では、中高の定期テスト採点にコンピュータ採点を利用するケースが広がっています。

いずれも、働き方改革が背面にあるようですが、問題分析や、授業の改善などの視点を強くいただき、生徒たちの為と言い切れるような大義が欲しいと感じています。

埼玉の公立高校の説明会や文化祭などの日程が公表されました。私学と同様に、申し込み制・定員制になっています。大きく異なるのが、公立では、定員に達した際に閉め切られ、追加日程はほとんど設けられないことでしょうか、公立の人气が低下しているため、公私間協定の定員比率が60対40に近づいてきました。

受験生の学校選択の幅を広げ、目的意識を持たせるためには、いろいろ工夫して、公正な機会を提供することは、不可欠だろうと思います。人气がなくなったから定員を縮小する。更に塾対象の説明会が東部地区を中心に拡大してきました。

公立の成績上位性が受験する学校は比較的倍率は落ちていません。中堅・下位の生徒を集める学校の今一つの工夫や柔軟性を期待したいと感じています。

男女共同参画苦情処理委員会の「男女別学校の解消」に対する回答期限が迫ってきました。「ジェンダー平等」と「受験生に多様な選択肢を」の対立構図は、これまでの歴史観から見て不可思議にも思えます。どんな結論になるのか、その後、どんな展開になるのか、注目していきたいと思います。

令和7年度 埼玉県公立高等学校第1学年及び専攻科第1学年並びに県立中学校第1学年生徒募集人員

[中学校等卒業（予定）者数の概要]

区分 年度	中学校等卒業 （予定）者数
令和7年度	61,832
令和6年度	62,113
比較	-281

(注) 中学校等卒業（予定）者数 [国公立中学校・義務教育学校]

※県立伊奈学園中学校を含む。

令和7年度 令和5年度学校基本調査（令和5年5月1日現在の第2学年在籍数）より

令和6年度 令和5年度学校基本調査（令和5年5月1日現在の第3学年在籍数）より

[全日制の課程の概要]

1 対前年度増減状況

	募集学校数	募集人員	転編入枠
令和7年度	131	35,480	240
令和6年度	131	35,600	240
比較	±0	-120	±0

(注) 対前年度募集人員の増減の内訳

募集人員増 1校 40人増

募集人員減 4校 160人減

2 募集人員増をする学校・学科（1校・40人増）

令和6年度				令和7年度			
学校名	学科等	男・女・共	募集人員	学校名	学科等	男・女・共	募集人員
草加西	普通	共	240	草加西	普通	共	280

3 募集人員減をする学校・学科（4校・160人減）

令和6年度				令和7年度			
学校名	学科等	男・女・共	募集人員	学校名	学科等	男・女・共	募集人員
鶴ヶ島清風	普通	共	240	鶴ヶ島清風	普通	共	200
越谷東	普通	共	320	越谷東	普通	共	280
栗橋北彩	普通	共	200	栗橋北彩	普通	共	160
○川口市立	普通	共	360	○川口市立	普通	共	320
	スポーツ科学コース	共	80		スポーツ科学コース	共	80
	理数	共	40		理数	共	40

4 転編入枠の学科別内訳

学 科	転編入枠
普通	184
農業	5
工業	19
商業	15
家庭	1
外国語	1
総合	15
計	240

[定時制の課程の概要]

1 対前年度増減状況

	募集学校数	募集人員	転編入枠
令和7年度	24	2,060	62
令和6年度	24	2,140	62
比較	±0	-80	±0

2 募集人員減をする学校・学科（2校・80人減）

令和6年度				令和7年度			
学校名	学科等	男・女・共	募集人員	学校名	学科等	男・女・共	募集人員
越ヶ谷	普通	共	80	越ヶ谷	普通	共	40
川越工業	普通	共	40	川越工業	普通	共	40
	工業技術	共	80		工業技術	共	40

[単位制による通信制の課程（大宮中央高等学校）の概要]

対前年度増減状況

	専修学校の技能連携生、転入生 及び編入生並びに転籍生の計
令和7年度	550人を標準とする
令和6年度	550人を標準とする
比較	±0

(注) 技能連携生とは、通信制高等学校の生徒のうち、教育委員会が指定する技能教育のための施設で教育を受けている者をいう。

[専攻科（常盤高等学校、新座総合技術高等学校）の概要]

対前年度増減状況

	募集人員
令和7年度	15
令和6年度	15
比較	±0

(注) 常盤高等学校は、看護科と看護専攻科を合わせた5年一貫教育であるため、看護専攻科第1学年については、新たな募集を行わない。

[県立中学校（伊奈学園中学校）の概要]

対前年度増減状況

	募集人員
令和7年度	80
令和6年度	80
比較	±0

【 全 ・ 定 】

(様式5) 入学願書 (一般募集等・欠員補充・秋季募集)

志願先高等学校		立		科・系・コース (部)	
※ 受検番号		立		科・系・コース (部)	
志願者	ふりがな	生年 年月日	昭成	出身校	中学校
	氏名	年月日	平成	日生	卒業・卒業見込
	現住所	〒			
	電話番号	(卒業見込の者は記入しない)			
	* 勤務先名 所在地・電話番号				
保護者	氏名 (自署)				
	現住所 電話番号				
		特別選抜に関する申告欄			
		帰国生徒特別選抜による募集			
		外国人特別選抜による募集			
		不整校の生徒などを対象とした特別な選抜			
		定時制の課程における特別募集			
		実技検査に関する申告欄			
		第2志望に関する申告欄			
		あり		科・系・コース (部)	
		なし			
		学力検査等の取組を要する措置			

※ 一般募集等においては、この様式は使用せず、電子出願システムにより出願する。

※ 一般募集等における入学選考手数料については、電子出願システムの案内に従い、電子収納により納付する。
欠員補充・秋季募集における入学選考手数料については、志願先高等学校の指示に従い納付する。

令和 7 年 月 日
上記のとおり、貴校に入学を志願します。

○ 出願する際の注意事項

1 入学願書記入上の注意等

- (1) 一般募集等に出席する志願者は、電子出願システムの案内に従い、志願者情報等の入力を行う。様式5は確認として
の便用に限る。
- (2) 欠員補充・秋季募集に出願する志願者は、以下の通り記入する。
アイ 里ベン又は黒ボールペンなど保存性の高い筆記具を用い、太線内を記入する。
ウ 様式上部にある、(一般募集等・欠員補充・秋季募集)の欄は、欠員補充に出願するときは「欠員補充」を、秋季募
集に出願するときは「秋季募集」を○で囲む。
エ 【全・定】、出身校欄の「卒業・卒業見込」は、該当するものを○で囲む。
オ 生年月日の欄は、該当する元号を○で囲む。
カ 出身校欄の卒業年の元号が、「平成」以前の場合は、「令和」を二重線で消し、該当する元号を記入する。
キ 現住所欄は、出身校のもの(県外、海外からの出願の際も出願時の住所を記入する)。
ク 志願者欄の電話番号は、令和7年3月卒業見込の者は記入しない。「未定」と記入する。
ケ ＊欄は、定時制の志願者のみが記入する。勤務先が未定の場合は、「未定」と記入する。
コ 保護者欄の電話番号は、緊急時に保護者へ連絡をとる際、連絡がつくと思われ番号を記入する。(複数可)
サ 実技検査に関する申告欄については、志願先高等学校の指示に従い記入する。
シ 入学願書を作成した日付を、右下の記入欄に記入する。
- (3) 欠員補充・秋季募集において、入学願書の様式(様式5)をコピーしたものに記入して提出しても差し支えない。

2 受検票記入上の注意

- (1) 一般募集等に出席する志願者は、電子出願システムの案内に従い、各自で印刷をする。様式5-2は確認としてので使
用に限る。
 - (2) 欠員補充・秋季募集の志願者は、太線内を記入し、切り取って提出する。その他は、志願先高等学校が記入する。
- ※ 入学願書及び受検票を誤って記入した場合、二重線で消し、訂正すること。

3 入学選考手数料

- (1) 県立高等学校については、電子出願システムの案内に従い、電子収納により納付する。
(全日制の課程 2,200円、定時制の課程 950円)
- (2) 市立高等学校については、以下の通りとする。

市	入学選考手数料	納付方法
さいたま市	2,200円	出願手続の案内に従い、電子収納により納付する。
川口市	全日制の課程 2,200円	
	定時制の課程 950円	
川越市	2,200円	

(様式5-2) 受検票

受検番号	※
ふりがな	
氏名	
出身校	立 中学校
検査会場	
志願先高等学校名・校長氏名	
備考	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 定時制の特別募集 の志願者のみ、写 真を貼る。 (縦 4 cm × 横 3 cm) </div>

検査日等の携行品
受検票、鉛筆、消しゴム、三角定規、コンパス、
上ばき、志願先高等学校長の指示するもの

切り取って提出すること

令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜における 調査書の第3学年の評定に係る調査結果の概要

- 1 調査対象 県内公立中学校及び義務教育学校（363校）から県教育委員会に提出された学習成績分布表
- 2 調査内容 令和6年3月卒業見込み者の第3学年12月末日における調査書の評定の分布
- 3 調査教科 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語の9教科
- 4 調査結果 段階別の割合（％）

教科 \ 評定	5	4	3	2	1
国語	22.0	23.3	43.0	8.0	3.8
社会	27.9	22.0	37.4	8.8	3.9
数学	24.8	22.6	35.2	13.1	4.3
理科	25.1	22.9	39.0	9.0	4.0
音楽	25.2	29.6	37.6	3.3	4.3
美術	22.6	31.4	38.8	3.1	4.1
保健体育	23.4	29.9	39.1	3.3	4.3
技術・家庭	21.4	29.5	41.3	3.9	3.9
外国語	26.2	18.0	39.2	12.4	4.1

※上記の数値は小数第一位で示すデータ処理の都合上、合計が100（％）にならない教科があります。